

インターバンクの声（2016 年 11 月 21 日）

週末の東京市場の夕方、円相場は 111 円台まであと 10 銭もないような水準まで円売り・ドル買いが進んでいたが、さすがに円売りのピッチが速いとの懸念が広がったことと、週末の手仕舞いも加わりポジション調整の動きが強まった。このドル売り調整は、ロンドン市場に入っても続き、一時は 110 円割れの水準での取引が長引きそうな場面もあった。それでも前日のイエレン米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長に続き、18 日も今年の連邦公開市場委員会 (FOMC) での投票権を持つセントルイス連銀のブロード総裁やカンザスシティ連銀のジョージ総裁も利上げに前向きな発言をしたことで米国債利回りが上昇し始めるとドルも反発し始めた。

債券市場でトランプ次期政権下ではインフレが高進するとの見方が広がっていることもあるが、109 円台後半や 110 円台前半でドル売りに動いた人たちが直ぐにポジションを巻き戻したことも影響していたようだ。今年ここまでの高値・安値の半値 (110 円 35 銭) もしっかり越えて来たドル買いの勢いからすれば、今週の米経済指標に大きなつまずきがなければ、次は昨年の高値と今年の安値の半値 112 円 43 銭水準が目標になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。